「研修の意義及び開催方法について」(モデル研修用)

1)目的

困難事例等により事例テーマが本来の課題なのか、支援困難となっている事由について演習で検証すると共に、課題解決に向けた展開方法を学び、個々のケアマネジメントの質の向上を図ることを目的とする。

- 2) 使用様式
 - ①事例検討シート
 - ②演習シート「課題再分析表」
- 3) 使用の流れについて
 - 事前に入力する項目
 - ①テーマ (提出理由)
 - ②利用者及び家族の主訴
 - ③現在の「解決すべき生活課題」とその課題を抽出した理由(背景)
 - ※以上の①~③については事例提供者より事前に入力。
 - 演習の流れ(時間:1時間30分)

質疑応答のルール

- ・事例提供者からいかに多くの情報を聞き出すことが重要。事例提供者が委縮するような質問の仕方はタブー
- ・事例提供者へ気づきを促すために、質問にその理由を添える
- ・いい質問は「よい空気を作り、雰囲気を作る」それは事例提供書 に気づきを与える。

時間	内容	詳細
10分	事例紹介 (シートにない情報も口頭で説明)	事例提供者
10分	Iの質問内容を質問の理由も含め検討し記入	個人ワーク
	※課題再分析表 使用 (A4)	
20 分	・検討した質問内容について事例提供者に質疑応答	質問:個々にて
	※個々により質問	記録:グループ代表の記
	・応答に対し新たな情報に記入	録者にて
	※グループの記録者により記入する	※質疑の進行役必要
	※課題再分析表 使用 (A3)	
35 分	Ⅲ~Ⅵまで演習	グループワーク
10 分	発表	
5分	まとめ (事例提供者より感想等)	

○ 演習指導者の指導ポイント及び注意点等

本研修については、課題解決の答えを出すものではない。演習を通し、事例の中で、見えてなかった問題などを見出し、本来の課題解決に至る過程や方向性を示すものであり、事例提供者にとっては自己覚知を促していくものである。そのため、事例提供者にいたっては、自己覚知により痛みを伴うこともある。よって、演習指導者はスーパービジョンにおける機能(管理・教育・支持)を意識し指導していく必要がある。

※演習シートの記載についてのポイント等については「演習シート(説明用)」を確認

3) モデル事例について、実際の事例提供者となる際の注意点等

架空のモデル事例となるため、詳細の内容については決められない。受講側より、質問など答えにくい部分もあると思うが、おおよその予想で回答いただくか、回答が困難な内容については「確認できていない」こととして回答する。